

様式2(指定管理者施設)

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成23年度事業分)

1. 施設の概要

施設名	山梨県立本栖湖青少年スポーツセンター	所管課	スポーツ健康課
所在地	南都留郡富士河口湖町本栖210	設置年月日 (改築年月日等)	昭和40年5月
管理方式	指定管理者(財団法人山梨県体育協会、平成18年4月1日～)		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立本栖湖青少年スポーツセンター設置及び管理条例		
設置目的	豊かな自然とのふれあいの中で、青少年に集団宿泊生活及びスポーツ活動の機会と場を提供し、もって青少年の心身の健全な発達に寄与するため、本栖湖青少年スポーツセンターを設置する。		
主な施設内容 (定員等)	本館(事務所、宿泊棟)(宿泊73人)、新館(宿泊棟)(宿泊133人) 体育館(バスケットボール(バレーボール)コート1面) 運動場(400mトラック、フィールド)、キャンプ場(300人収容)		
主な業務内容	(1)利用の承認に関する業務 (2)施設及び設備器具の維持保全に関する業務 (3)その他教育委員会が必要と認める業務		

2. 類似施設・近隣施設

名称・施設内容・ 利用状況等	(1)県立青少年センター:県立青少年センター:体育館、研修室・会議室、宿泊施設、運動場、屋内プール等 (2)富士北麓公園:利用者数154,102人 ※本栖湖青少年スポーツセンターは、富士北麓地域では唯一の宿泊施設を合わせ持つスポーツ施設である。
-------------------	--

3. 利用状況

単位:人、%

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (目標値)
利用者数	体育施設利用者数	19,998	11,642	15,186	
	キャンプ場利用者数	8,471	6,044	5,091	
	宿泊施設利用者数	16,774	12,579	14,324	
	利用者数合計	45,243	30,265	34,601	
	目標値	39,500	39,500	40,000	39,500
	目標値設定の考え方	過去3年間の平均を標準とし、さらに新規利用者の集客を見込む。	過去3年間の平均を標準とし、さらに新規利用者の集客を見込む。	H20年度より開催された大型イベントがH22から開催されないため、H20年度の目標値を基準とし、さらに新規利用者の集客を見込む。	H20年度目標値とする。
	対21年度比	100.0%	66.9%	76.5%	87.3%

4. 収支状況

単位:円、%

		平成22年度	平成23年度 (計画値)	平成23年度 (実績値)	平成24年度 (計画値)
収入	施設利用料	11,698,550	13,500,000	12,044,010	13,500,000
	指定管理者委託料	23,966,000	20,029,000	20,029,000	20,497,000
	その他				
	収入合計(A)	35,664,550	33,529,000	32,073,010	33,997,000
支出	人件費	16,934,400	19,852,000	18,187,483	20,189,000
	県への納付金				
	管理運営費	14,432,319	13,677,000	13,211,078	13,808,000
	(うち外部委託費)(B)	3,871,716	3,981,000	3,858,652	3,981,000
	支出合計(C)	31,366,719	33,529,000	31,398,561	33,997,000
収支差額(A-C)		4,297,831	0	674,449	0
外部委託比率(B÷C)		12.3%	11.9%	12.3%	11.7%
利用者一人当りの経費		530	501	579	519

※直営の年度は、県の収支を記入し、指定管理者施設の年度は、指定管理者の収支を記入する。
 ※利用者1人当りの経費の算定式は、直営(HO～O年):(支出-収入)÷利用者数、指定管理者(HO～):指定管理者委託料÷利用者数。

5. 利用者満足度

実施方法等	実施時期:平成23年5月、7月、8月、9月、年末年始 実施方法:貸館利用者へのアンケート 回答数:100人
-------	---

単位: %

調査項目	満足・十分	普通・ どちらでもない	不満足・ 不十分	不明・ わからない
①施設・設備管理	88.0%	4.0%	6.0%	2.0%
②利用規程	85.0%	0.0%	5.0%	10.0%
③受付・接客	92.0%	6.0%	1.0%	1.0%
④食事サービス	78.0%	9.0%	7.0%	6.0%
⑤自主事業(年末年始営業)	80.0%	10.0%	0.0%	10.0%
各項目の平均	84.6%	5.8%	3.8%	5.8%

※調査項目は、施設ごとに適宜変更する。

利用者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・洋式トイレの増設(施設・設備管理)。 ・体育館の床をはりなおして欲しい(施設・設備管理)。 ・もう少し清潔感のある施設に…(施設・設備管理) ・昨年より野菜が増えたが、まだ揚げ物が多い気がする(食事サービス)。 ・大変親切でした(受付・接客)。
利用者の意見への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の改善について、費用がかかるものについては県へ予算要望した。 ・現状改善できるものは職員間で徹底をし、改善した。 ・委託業者に利用者の要望を伝え、指導を行った。

6. 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	管理については業務計画書のとおり行なった。 修繕が必要な要望については予算内で対応できるところは対応し、高額になる修繕については県へ改善を予算要望した。	施設の維持管理については、事業報告書や現地確認の結果、適正に業務執行されている。 引き続き事業計画書どおり適正に業務を行うこと。
運営業務	業務計画書のとおり行なった。 今後も利用者により満足いただけるよう利用者サービスに努める。	施設の運営業務については、事業報告書や現地確認の結果、適正に業務執行されている。 引き続き事業計画書どおり適正に業務を行うこと。
自主事業	業務計画書のとおり行なった。 特に乾燥機の設置は以前から利用者から要望があったため好評を得られた。	自主事業については事業計画書どおり業務が行われていることを確認した。 引き続き積極的に自主事業を計画し、利用者へのサービス向上に努めること。
利用状況	利用者数の大幅な増加は困難だが、パンフレットやインターネット等でPR活動に努め、事業計画の目標は概ね達成できた。	利用者の拡大に繋がるよう、創意工夫したPR活動や情報提供に一層努めること。 平成22年度より利用状況は好転したが、目標値を下回る結果となっているため、利用者の増加拡大に繋がる創意工夫を行うこと。
収支状況	施設の老朽化が激しく、修繕が例年多くなってはきているが、経費の削減に努めた。	利用者の安全性の確保や利便性の向上に必要な修繕や備品の購入を行うなかで、計画以上に支出を抑えていることは評価できる。
利用者満足度	職員の親切・丁寧な対応は利用者の方々に満足してもらえている。 修繕が必要な要望については予算内で対応できるところは対応し、高額になる修繕については県へ改善を予算要望した。	施設は設置から相当期間経過し、老朽化しているため、改善要望が多くあるにもかかわらず、職員の親切な対応が利用者に評価されているものと思われる。 食事の改善要望については、きめ細かく対応するよう指導した。今後とも利用者ニーズを把握し、サービスの向上に努めること。
運営目標の達成状況	利用者数の目標39,500人に対し、実績は34,601人であり、達成率は87.6%である。昨年度に比べると、4,336人増加となっている。今後も引き続き利用者目標数を達成するよう、有効な利用者増加策を講ずる。	
施設所管課による総合的な評価及び指導事項	維持管理業務、運営業務等については概ね適正に実施されている。また、センターは老朽化が著しい施設であるが、この管理の難しい施設を大きな事故もなく管理している点は評価できる。 今後は、一層の経費削減と増収に努めること。また、利用者ニーズを把握するとともに、利用者の意見には条例、協定等に基づき可能な限り対応すること。	
施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況	施設及び設備の老朽化が著しいため、今後もよりいっそう点検を細かく行い、事故の無いよう管理をし、経費削減と利用促進に努める。 また、利用者ニーズを把握し、対応していく。	

7. 管理体制(組織図)

